

平成30年度 高等学校新入生徒の学力に関する研究（国語）

愛知県総合教育センターでは、愛知県高等学校国語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校等において、その新入生徒を対象に国語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

本研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 調査問題の構成とねらい，科別・大問別・小問別正答率，群別正答率比較表など
- (3) 調査問題及び解答例，応答分析，考察，指導上の留意点など

<検索用キーワード>

国語 高等学校 中学校 中高連携 学力調査 正答率 応答分析 読解力

研究協議会委員

愛知県立明和高等学校教諭	本部 亜矢子
愛知県立守山高等学校教諭	清野 万葉
愛知県立熱田高等学校教諭	竹内 麻由
愛知県立天白高等学校教諭	林 雄一
愛知県立春日井高等学校教諭	霜鳥 誠
愛知県立春日井西高等学校教諭	内田 貴士
愛知県立新川高等学校教諭	日比野奈津子
愛知県立横須賀高等学校教諭	宇都木 達
愛知県立刈谷東高等学校教諭	大島 あい
愛知県立御津高等学校教諭	細澤 美沙
愛知県総合教育センター研究指導主事	戸松 孝至（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	2
2 調査の実施及び処理	2
3 調査結果の概要	3
4 分析結果の概要	3
5 調査問題の構成及び正答率	4
6 調査問題（一部掲載省略）及び解答	7
7 問題別応答分析と指導上の留意点	
(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	9
(2) 大問〔二〕現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	13
(3) 大問〔三〕国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点	17
(4) 大問〔四〕古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点	21

1 調査の趣旨

この調査は、昭和30年度以来、名古屋地区国語研究会が中心となって、県内の国公立高等学校の新入学生徒を対象に実施してきた。昭和45年度からは、愛知県総合教育センター（昭和40年度より事業に参加）と愛知県国語教育研究会高等学校部会との共同研究調査として、調査問題の作成、統計的処理、結果の考察等を行っている。この調査は、次の資料を得ることを目的としている。

- ア 中学校及び高等学校における国語教育に関する基礎資料
- イ 中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
- ウ 全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力を捉えるための参考資料

2 調査の実施及び処理

(1) 実施の時期及び処理

各校の合格者発表後、3月下旬から4月中旬までの間に、各校の実状に応じて適宜調査を実施した。なお、解答時間は50分とした（問題用紙はA4判右綴じ、解答用紙はA4判1枚）。

(2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった127校（2学科以上ある参加校はそれぞれの学科を1校とした）の27,863名について諸調査統計の処理をした。内訳は表1のとおりである。

(表1)

課 程	全 日 制					定 時 制	全 体
	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他		
学 科	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他		
学 校 数	95	6	5	9	12	0	127
生 徒 数	24,367	1,474	600	503	919	0	27,863

(3) 統計上の調査事項

各参加校には次の事項について回答を求めた。

ア 個人別得点分布

イ 各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点

注 「群別正答率比較表」（6ページ）のA・B・C群は、(3)イの「各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点」を基に各学校を順位付けし、上位9校の抽出生徒300人程度をA群、平均点付近の学校の抽出生徒300人程度をB群、下位28校の抽出生徒300人程度をC群とし、調査対象としたものである。

(4) 小問別応答分析等（詳細分析は9ページから24ページまで）

4校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって、a群＝上位100人、b群＝中位100人、c群＝下位100人に分け、答案に直接当たって応答分析を行った。

なお、各群間の差がほぼ等間隔で付く場合は、〈a-b-c型〉、a群とb群、b群とc群との間隔の差が2:1程度以上で付く場合は、〈a-b c型〉、その逆の場合は、〈a b-c型〉、各群の間隔の差がほとんどない場合は、〈a b c型〉として分類してある。

3 調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて、平均点・標準偏差をみたのが、次の表2である。

学科別 人数 得点	普通科		総合学科		商業科系		家庭科系		その他		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	1,242	5.1	9	0.6	4	0.7	1	0.2	7	0.8	1,263	4.5
80～ 89	2,885	11.8	48	3.3	16	2.7	13	2.6	16	1.7	2,978	10.7
70～ 79	4,111	16.9	151	10.2	55	9.2	44	8.7	66	7.2	4,427	15.9
60～ 69	4,572	18.8	229	15.5	116	19.3	79	15.7	86	9.4	5,082	18.2
50～ 59	4,215	17.3	329	22.3	149	24.8	120	23.9	157	17.1	4,970	17.8
40～ 49	3,391	13.9	304	20.6	134	22.3	110	21.9	191	20.8	4,130	14.8
30～ 39	2,204	9.0	253	17.2	85	14.2	79	15.7	186	20.2	2,807	10.1
20～ 29	1,183	4.9	127	8.6	33	5.5	42	8.3	148	16.1	1,533	5.5
10～ 19	501	2.1	23	1.6	8	1.3	13	2.6	57	6.2	602	2.2
0～ 9	63	0.3	1	0.1	0	0.0	2	0.4	5	0.5	71	0.3
平均点	59.7		50.6		52.1		49.6		44.0		58.4	
標準偏差	19.5		16.5		15.3		16.3		17.7		19.5	

(表2)

4 分析結果の概要 (詳細分析は9ページから24ページまで)

(1) 論理的な文章(大問[一])を読む力について

佐伯啓思『迫られる「人間とは何か」』(朝日新聞2017年7月7日)より、著作権の許諾を取った上で出題した。問一以外の各小問で正答率が50%を下回っており、抽象的な言葉の意味を文脈から理解しながら読むことが難しかったと考えられる。今後は、文章を論理的に読み取る力を身に付けさせるとともに、生徒の語彙を豊かにする指導も重視したい。

(2) 文学的な文章(大問[二])を読む力について

恩田陸著『チョコレートコスモス』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問二全体の正答率は66.8%で、生徒にとって身近な内容ではないが、全体的に平易な文章で読みやすかったのではないかと考えられる。ただ、文章中の表現を基に登場人物の心情を理解することには課題がある。授業では常に表現や言葉に注目させ、言葉による見方・考え方を働かせた読解を意識させたい。

(3) 国語基礎力(大問[三])について

前半は相手の立場に配慮した表現について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。前半で設問としたような、複数の資料の中から必要な資料を見分けたり、資料と資料の相違点や関連性を理解したりする力は実社会でも必要な力である。そのような実社会で必要となる力を、工夫ある取組によって身に付けさせたい。

(4) 古文(大問[四])を読む力について

鎌倉時代中期の説話集「十訓抄」より出題した。分析からは文章全体の構造を捉える力が不足していることが分かる。授業において教材として扱う説話や物語を、構造を踏まえて読解することができるように指導し、文章全体の内容と部分の解釈とを関連付けながら理解する力を身に付けさせたい。

5 調査問題の構成及び正答率

(1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は、現代文2題（論理的な文章と文学的な文章）、国語基礎力1題及び古典（古文）1題によって構成した。各小問のねらいや配点を表3に示す。

(表3)

大問	分野・領域	小問	小問のねらい	設問形態	小問数	配点
一	現代文 (論理的な文章)	一 二 三 四 五 六	文のつながりの理解 内容の理解 内容の把握 内容の理解 内容の理解 文章全体の内容把握	選択 (1/5) 選択 (1/5) 記述 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5)	1 1 1 1 1 1 <6>	4×1 4×1 5×1 5×1 6×1 6×1 計30点
二	現代文 (文学的な文章)	一 二 三 四 五 六	心情の理解 心情の理解 内容の理解 心情の理解 内容の理解 表現の理解	選択 (1/5) 選択 (1/5) 記述 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5)	1 1 1 1 1 1 <6>	2×1 2×1 4×1 4×1 4×1 4×1 計20点
三	国語基礎力 (漢字・語彙等)	一 二 三 四 五 六	相手の立場に配慮した表現 (1)情報の読み取り (2)目的の理解と情報の取舍 (3)表現の工夫の理解 (4)条件を踏まえた具体的表現 文法的識別 熟語の構成の理解 係り受けの理解 和語の知識 漢字の読みと書き取り	選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5) 記述	1 1 1 1 1 1 1 1 6 <14>	2×1 2×1 3×1 3×1 2×1 2×1 2×1 2×1 2×6 計30点
四	古典 (古文)	一 二 三 四 五 六	歴史的仮名遣いの確認 心情の理解 内容の理解 文脈の理解 内容の理解 内容の理解	記述 選択 (1/5) 記述 選択 (1/5) 選択 (1/5) 選択 (1/5)	1 1 1 1 1 1 <6>	2×1 2×1 4×1 4×1 4×1 4×1 計20点

(2) 科別・大問別・小問別正答率

次の表4は、各校の、無作為に抽出された10%の生徒の得点を処理して、正答率(%)を求めたものである。〔小計欄の正答率は、各小問の加重平均〕

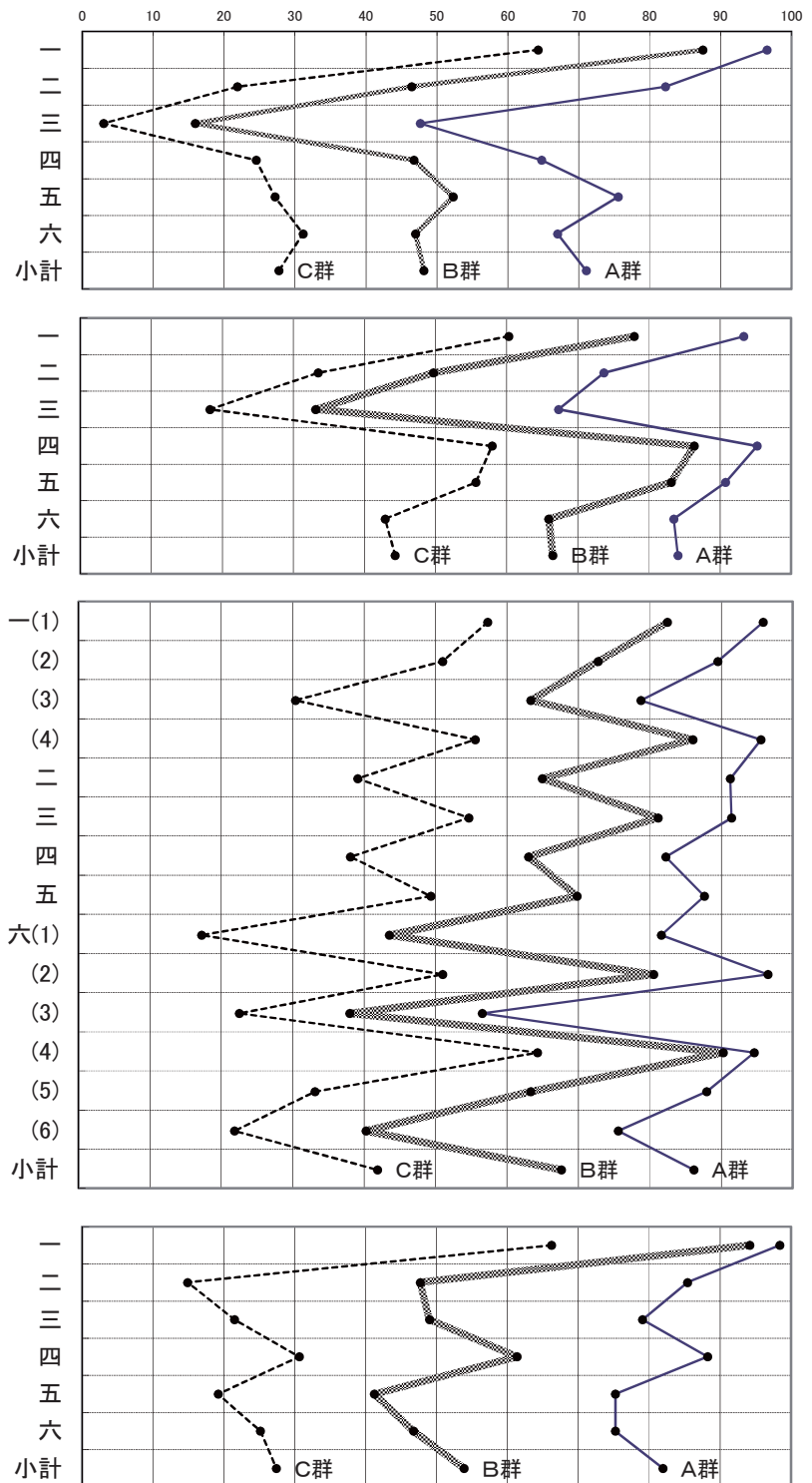
(表4)

大問	学 科		普通科 2,465	総合学科 148	商業科系 60	家庭科系 55	その他 94	全体 2,822
	小問	配点						
一	一	4	86.2	79.7	76.7	76.4	71.3	85.0
	二	4	49.2	39.2	46.7	32.7	31.9	47.8
	三	5	21.6	11.5	11.7	1.8	7.4	20.0
	四	5	48.4	35.1	26.7	34.5	31.9	46.4
	五	6	50.9	47.3	41.7	30.9	43.6	49.9
	六	6	49.4	33.8	43.3	40.0	31.9	47.6
	小計	30	49.8	39.8	39.8	34.8	35.4	48.3
二	一	2	80.8	74.3	68.3	63.6	68.1	79.4
	二	2	55.6	44.6	41.7	45.5	39.4	54.0
	三	4	43.7	39.2	41.7	27.3	22.3	42.4
	四	4	82.1	76.4	85.0	67.3	68.1	81.1
	五	4	80.1	74.3	58.3	69.1	63.8	78.6
	六	4	66.5	56.8	65.0	45.5	53.2	65.1
	小計	20	68.1	61.2	61.0	52.7	52.2	66.8
三	一(1)	2	84.0	83.8	76.7	70.9	71.3	83.2
	一(2)	2	76.2	68.9	58.3	67.3	63.8	74.9
	一(3)	3	62.1	52.0	51.7	52.7	45.7	60.7
	一(4)	3	83.0	78.4	78.3	61.8	51.8	81.2
	二	2	69.1	64.9	70.0	54.5	56.4	68.2
	三	2	78.6	71.6	80.0	65.5	60.6	77.4
	四	2	62.1	56.1	51.7	52.7	46.8	60.9
	五	2	71.4	69.6	78.3	56.4	60.6	70.8
	六(1)	2	46.3	31.1	56.7	25.5	29.8	44.8
	六(2)	2	78.2	66.9	81.7	61.8	67.0	77.0
	六(3)	2	39.8	28.4	25.0	34.5	21.3	38.1
	六(4)	2	87.4	85.1	93.3	70.9	70.2	86.5
	六(5)	2	66.9	56.8	55.0	30.9	39.4	64.5
	六(6)	2	48.7	32.4	36.7	34.5	30.9	46.7
小計	30	68.4	60.7	63.9	53.2	51.0	67.0	
四	一	2	91.4	87.2	85.0	81.8	80.9	90.5
	二	2	53.0	38.5	43.3	18.2	25.5	50.5
	三	4	48.2	37.8	41.7	27.3	31.9	46.5
	四	4	63.3	50.7	51.7	40.0	38.3	61.1
	五	4	47.1	35.1	36.7	27.3	22.3	45.0
	六	4	48.9	39.2	45.0	36.4	29.8	47.4
	小計	20	55.9	45.1	47.8	36.2	35.1	54.1

(3) 群別正答率比較表

大問	小問	A群	B群	C群
一 論理的 文章	一	96.5	87.5	64.2
	二	82.2	46.4	21.9
	三	47.6	15.9	3.0
	四	64.8	46.8	24.5
	五	75.6	52.3	27.2
	六	67.0	47.0	31.1
	小計	71.1	48.1	27.7
二 文学的 文章	一	93.3	77.9	60.3
	二	73.7	49.7	33.4
	三	67.3	33.1	18.2
	四	95.2	86.4	57.9
	五	90.8	83.1	55.6
	六	83.5	65.9	42.9
	小計	84.1	66.5	44.3
三 国語 基礎力	一(1)	95.9	82.5	57.3
	(2)	89.5	72.7	51.0
	(3)	78.7	63.3	30.4
	(4)	95.6	86.0	55.5
	二	91.3	64.9	39.1
	三	91.4	81.2	54.6
	四	82.2	63.0	38.1
	五	87.6	69.8	49.3
	六(1)	81.6	43.5	17.2
	(2)	96.5	80.5	51.0
	(3)	56.5	38.0	22.5
	(4)	94.6	90.3	64.2
	(5)	87.9	63.3	33.1
	(6)	75.6	40.3	21.9
小計	86.1	67.6	41.9	
四 古文	一	98.4	94.2	66.2
	二	85.4	47.7	14.9
	三	79.0	49.0	21.5
	四	88.3	61.4	30.6
	五	75.2	41.2	19.2
	六	75.2	46.8	25.2
	小計	81.9	53.9	27.4

(表5)



(注) A・B・C群については、「2 調査の実施及び処理」(2ページ)の注を参照。

6 読解問題（一部知識必要）及び解答

【三】 次の問いに答えよ。

問一 次の、日本人の太郎と外国人留学生のマイクが、二人が住んでいる学生寮のマンションについて、寄せられた意見を見ながら会話をしている場面である。これを読んであとの問いに答えよ。

寄せられた意見

- ・ごみはごみ箱へ！ロビーなどのごみ用場所はきれいに使いませんか？
- ・食堂にペットボトルや紙コップを置きっぱなしにしないでください。
- ・本や雑誌などは、縛ってまとめて出すルールはです！あと、燃えるごみの中に燃えないごみも混ざって出さずのびやめましよう！
- ・通路が狭くなるので、入り口付近に駐車しないでください。
- ・ごみ出しの時間を守りましょう。猫が夜中に荒らしてしまいます。前日の夜には出さないで。
- ・早朝や深夜のロビーでは静かにしてください。結構部屋に響くので。
- ・4階の誰だか知りませんが、ドアをやたらハタハタと開け閉めする人、やめてくれませんか。気になります。

太郎 「ごみ捨てに関しての苦情がいくつかあるね。寮の規則にはごみの出し方についてこうやって書いてあるのに、みんな読んでないのかなあ。」

寮の規則

【ごみの出し方】
ごみ出しは曜日を守り、必ず朝の8時までにお願いします。可燃物は月曜日と木曜日、不燃物は水曜日、新聞・書籍類は金曜日です。新聞等を出すときには、縛ってまとめてから出してください。

マイク 「寮は、寮の規則が難しく、内容がよく分からないところがあります。他にも僕みたいと思っている外国人留学生はいるんじゃないでしょうか。」

太郎 「じゃあ、ごみの出し方についての寮の規則を、外国人向けに分かりやすく書き換えて、こんな張り紙を作ったらどうだろう。」

(4) 【寄せられた意見】の中にある次の文を、内の①～③の条件を全て踏まえて外国人にも分かりやすく書き換えた場合、最も適当なものはどれか。後から選び、かな符号で答えよ。

通路が狭くなるので、入り口付近に駐車しないでください。

- ① 難しい言葉を易しい言葉に置き換える。
- ② 内容ごとに文を分ける。
- ③ 求めていることを前に書く。

- ア 入り口付近に駐車しないでください。通路がせまくなります。
- イ 通るところがせまくなります。入り口の近くに自転車を置かないでください。
- ウ 入り口の近くには、通路がせまくなりますので、自転車を置かないでください。
- エ 通るところがせまくなりますので、入り口の近くに自転車を置かないでください。
- オ 入り口の近くに自転車を置かないでください。通るところがせまくなります。

問二 次の傍線部と文法的に同じものを名詞文を後から選び、かな符号で答えよ。

彼は水を飲みたそうだ。

- ア 彼女の歌声は素晴らしいそうだ。
- イ 雨不足で中庭の花が枯れそうだ。
- ウ 横浜の夜景はとてもきれいだそうだ。
- エ 昨日彼は友達から本を借りたそうだ。
- オ 彼が生徒会役員に立候補するそうだ。

【太郎が作った張り紙】

- ごみを出すときに 守ることに
・決められた 曜日に出してください。
燃えるもの …… 月曜日と木曜日
燃えないもの …… 水曜日
新聞や本 …… 金曜日
・朝の8時までに 出してください。
・新聞や本は ひもで縛って まとめて 出してください。

- (1) 【寄せられた意見】から、寮ごとのような問題が起きていることが読み取れるか。最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア 他の学生とうまく交流できない外国人留学生がいた。
イ 日本人の学生だけがごみ出しの時間を守っていないかった。
ウ 雑誌をまとめて縛って出してしまおう学生がいた。
エ 共用場所の時間を考えずに大声で話す学生がいた。
オ 一部の学生が深夜にこっそり学生寮を抜け出していた。
- (2) 【太郎が作った張り紙】について、寮の状況を踏まえてさらに書き加えることはいくつが何か。最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア ごみは必ずごみ箱に捨ててください。
イ 食器の片付けをしつかりとしてください。
ウ 空き缶は月曜日と木曜日に出してください。
エ ドアの開け閉めは静かにしてください。
オ 前日の夜にごみを出さないでください。
- (3) 【太郎が作った張り紙】について、外国人にも分かりやすくするために工夫したこととして **当てはまらないもの**を次から選び、かな符号で答えよ。
ア 分かりやすくするために、燃焼を簡単な言葉に置き換えた。
イ 必要なことを伝わりやすくするために、情報を減らした。
ウ 隠晦しにくくするために、文末表現を可能な限り統一した。
エ 意味を理解しやすくするために、一文を区切って示した。
オ 見やすくするために、内容ごとに項目を立てた。

問三 次の熟語の中から、語の構成が他の四つと異なるものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 清流 イ 国立 ウ 日没 エ 骨折 オ 地震

問四 次の傍線部が係る部分を後から選び、かな符号で答えよ。

僕はうかつにも細かい作業をしている彼に後ろから呼びかけて怒られた。

- ア している イ 彼に ウ 後ろから
エ 呼びかけて オ 怒られた

問五 次の傍線部の言葉の使い方として最も適当なものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 長い間苦勞して働いてきた父をあなどるために食事会を開いた。
イ 最終的な結論をどうするかは社長の判断にたしなめることにする。
ウ 相手の発言をあざけるような態度をとることはやめなさい。
エ 子どものいたずらをおどきらう母親の声が聞こえてくる。
オ 対戦する相手をまどろむことは良い結果をもたらさないだろう。

問六 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

- (1) 新入生をカンゲイする。 (2) 家と学校とをオウブクする。
(3) リウ字をアキラめる。 (4) 著しい進歩を遂げる。
(5) クニ連して技術を磨く。 (6) 同じ所作をクニ返す。

【四】 次の文章を読んで、おとの問いに答えよ。

楊梅大納言頭雅卿は、若くよりいみじく言失をぞし給ひける。
 十月 (源平は) お座をならしていた
 神無月のころ、ある宮腹に参りて、御簾の外にて、女房たちとものがたりせら
 まらば 時雨なれどもと盛ことまたのど
 れけるに、時雨のさとしければ、供なる雑色を呼びて、「車の降るに、時雨さし

入れよ」とのたまひけるを、「車軸とかやにや、おそろしや」とて、御簾の内、
 わらひあはれけり。

さて、ある女房の、「御いひたがへ、つねにありと聞ゆれば、まことにや、
 侍りするのぞか
 御祈りのあるぞや」といはれければ、「そのために、三尺のねずみをづくり、

供養せむと思ひ侍る」といはれたりける。をりふし、ねずみの御簾のきはを、走
 り通りけるを見て、御言に思ひまがへて、のたまひけるなり。

④ 「時雨さし入れよ」には、まさりてをかしかりけり。

(十訓抄 上 一ノ三十九)

- ※注 宮腹 皇女(天皇の娘)の子として生まれた人
 御簾 部屋の内外を隔てるすだれ
 女房 宮中に仕え、雑務を行う女性
 雑色 雑役をつとめる従者
 車 牛にひかせる乗用の車
 三尺 約九十七センチメートル

問一 波線部「わらひあはれ」の読み方を現代かなづかい(ひらがな)で記せ。

問二 傍線部①「おそろしや」とあるが、この言葉に込められた気持ちとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア ひどい雨に対する頭雅の不安に同調する気持ち
 イ 頭雅の乱暴な物言いにに対しておびえる気持ち
 ウ 急な雨におびえる頭雅の様子をからから気持ち
 エ 何事も決めつける頭雅の態度を非難する気持ち
 オ うっかり言った頭雅の言葉を面白がる気持ち

問三 傍線部②「ねずみ」とあるが、本来どのように言おうとしたのか。本文から二字で抜き出せ。

問四 傍線部③「いはれたりける」とは、誰が誰に言ったのか。最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 女房が頭雅に イ 頭雅が女房に ウ 頭雅が宮腹に
 エ 女房が宮腹に オ 宮腹が女房に

問五 傍線部④「時雨さし入れよ」には、まさりてをかしかりけり」の解釈として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 「時雨さし入れよ」より「ねずみ」の言い間違の方が面白かった。
 イ 「時雨さし入れよ」の方が「ねずみ」の言い間違より滑稽だった。
 ウ 「時雨さし入れよ」の冗談には臨し手の癒れた風流がうかがえた。
 エ 「時雨さし入れよ」の言い間違いでは話のおかしさが際立っていた。
 オ 「時雨さし入れよ」より「ねずみ」の冗談の方がよい評判であった。

問六 本文の内容に当てはまるものとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 頭雅は若い頃よりも癖がひどくなって人に笑われることもあった。
 イ 宮腹は御簾の外にいた頭雅を雨が降ってきたので内へ招き入れた。
 ウ 女房たちは頭雅の失敗に笑って最初は気付かないふりをしていた。
 エ 頭雅は自分の言い間違いをなくせるように祈願しようとしていた。
 オ 頭雅はねずみの供養をすることにより永年の願いを叶えたかった。

平成三十年度 新入生国語学力調査問題 (解答と配点)

※かな符号で答えるべきところを選択肢の内容で答えた場合も正解とする。

【一】

問一	イ	問二	エ	問三	主	体	問四	ア	問五	ウ	問六	ア
----	---	----	---	----	---	---	----	---	----	---	----	---

問一・問二は各4点 問三・問四は各5点 問五(問六)は各6点 (小計30点)

【二】

問一	イ	問二	ア	問三	自	分	問四	エ	問五	オ	問六	ウ
----	---	----	---	----	---	---	----	---	----	---	----	---

問一・問二は各2点 問三(問六)は各4点 (小計20点)

【三】

問一	(1)	エ	(2)	オ	(3)	イ	(4)	オ
問二	イ	問三	ア	問四	エ	問五	ウ	
問六	(1)	歓迎	(2)	往復	(3)	諦める		
(4)	いちじるしい	(5)	しょうじん	(6)	しよさ			

問一(3)(4)は各3点
 その他各2点 (小計30点)

【四】

問一	わ	ら	い	あ	わ	れ	問二	オ	問三	観	音	問四	イ	問五	ア	問六	エ
----	---	---	---	---	---	---	----	---	----	---	---	----	---	----	---	----	---

問一・問二は各2点 問三(問六)は各4点 (小計20点)

7 問題別応答分析と指導上の留意点

表右端の％は、抽出校4校の生徒300人の正答率若しくは誤答率である。

(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	イ（たとえば）	96	92	66	254	84.7
	誤答	ウ（なぜなら）	3	8	17	28	9.3
		オ（しかし）			12	12	4.0
		ア（あるいは）	1		5	6	2.0
		エ（ただし）				0	0.0

空欄前後の文脈を把握し、その関係性を表す接続詞を選択する問題である。正答はイ「たとえば」で、正答率は84.7％、高位の〈a b - c 型〉を示している。

空欄後には「囲碁での対決において」、「(A I は) 思わぬ『奇策』を考えだし」とあり、空欄前にある、「(A I は) 思わぬことを『考えだす』」こと具体例として用いられていることに気付くと、正答に至る。空欄直前には挿入句があるため、読みにくさもあった。

ウ「なぜなら」を選択した生徒は、空欄直前の「そこにまた、ある種の恐ろしさもあって」の「恐ろしさ」の理由説明が、空欄後の「思わぬ『奇策』を考えだし」であると捉えたと考えられる。しかし、「なぜなら…からだ」の呼応を理解していればこの選択肢を選ぶことはない。

オ「しかし」を選択した生徒は、空欄前に「(A I は) 学習機能を持っている」とあるのに、空欄後に「(A I は) 自滅していった」とあるので、逆接を表す接続詞を選択したと考えられる。

語句を拾い読むだけでなく、接続詞の働きに着目して、文と文のつながりを意識した読みを身に付けさせたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	エ（科学・技術の対象が自然や社会から～）	74	44	19	137	45.7
	誤答	イ（科学・技術の対象が工学や情報から～）	7	17	30	54	18.0
		オ（科学・技術の目的が機能の代替から～）	9	17	18	44	14.7
		ア（科学・技術の目的が便利さの追求から～）	5	9	22	36	12.0
		ウ（科学・技術の目的が法則の発見から～）	5	13	11	29	9.7

指示語を含む傍線部の内容を文脈に沿って理解する問題である。正答はエ「科学・技術の対象が自然や社会から人間そのものになったから」で、正答率は45.7％、〈a - b - c 型〉である。

傍線部直前の「こうした技術の展開」は「今日の科学の技術の展開」を指している。そして、傍線部は反語表現であり、今日の科学とこれまでの科学とは異なるものだとして主張している。これらのことを踏まえ、近代の合理的科学について述べた第五段落と、今日の科学について述べた第六段落の内容を読み比べて理解することができれば正答に至る。

c 群の生徒は、そのようなことに気付くことができなかつたために、文章全体の構造を考えることなく、傍線部付近の記述や単語を見て、選択肢を選んでしまう傾向があると考えられる。

傍線部の表現を基に根拠となる箇所気付、今日の科学と近代の科学のそれぞれの特徴について整理しながら読み解く力が必要であった。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	主体	50	18	6	74	24.7
	誤答	技術	11	18	18	47	15.7
		対象	17	15	12	44	14.7
		頭脳	3	17	15	35	11.7
		本質	7	5	8	20	6.7
		(その他)	12	27	36	75	25.0
		(無答)			5	5	1.7

前後の文脈を理解し、空欄に当てはまる適当な語を本文から抜き出す問題である。正答は「主体」で、正答率は24.7%、低位の〈a－b c型〉を示している。

空欄を含む段落では、AIやロボットを使うのは人間自身であるという考えを紹介しているが、空欄直前に「何も変わらない」「あくまで」という記述があることから、ここでは従来の科学・技術の立場に立って説明されていることに気付く必要がある。その上で、「もともと、近代の合理的科学は」から始まる第五段落の中にヒントを探ることになる。そして、この段落には「人間という理性的主体が自然や世界を対象化し」という記述があるため、空欄には「主体」が入ることが分かる。

さらに、近代の合理的科学についての記述を第九段落にも見つけられると、「主体」の語をより鮮明に意識できただろう。

正答率が低かった理由として、「主体」という語になじみがなかったこと、抜き出すべき語が空欄の付近になく、空欄から離れた段落内容を根拠にしなければならなかったことが考えられる。空欄付近から言葉を探した生徒は「技術」「本質」などと解答し、「対象」と解答してしまった生徒は、隣接する第六段落の「対象は人間自身」という記述に影響されたか、「対象」が「主体」とは逆の意味の言葉であるということを知らなかったとも考えられる。

今後は生徒たちが抽象的な語を使えるように指導するとともに、短絡的に答えを導くのではなく、文章全体を読んで本文の主旨を理解するような読解の姿勢を養う必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	ア (新しい技術は人間にとって便利であるが～)	73	35	20	128	42.7
	誤答	イ (人間は新しい技術を使うことで～)	11	33	30	74	24.7
		エ (人間は新しい技術を人間の幸福を～)	13	11	17	41	13.7
		オ (新しい技術は人間に世界を支配する力を～)	2	17	15	34	11.3
		ウ (人間は欲望に負けて「悪魔と取引する」～)	1	4	18	23	7.7

論の展開を把握し、筆者の主張の理由を読み取る問題である。正答はア「新しい技術は人間にとって便利であるが、人間を危険にさらしたり振り回したりする可能性があるから」で、正答率は42.7%、〈a－b c型〉を示している。

傍線部に引き続き、筆者の思いが述べられた後に、「第一の理由は」「第二の理由は」と列記されている。これらの二つの理由を理解して、両者が適切に説明されている選択肢を選ぶことができれば正答に至る。また、「悪魔と取引する」や「技術に取り込まれてゆく」などの比喩的な表現を用いて説明している第八段落の内容を、論の展開に照らし合わせて解釈する力も必要だった。

a 群と b・c 群の正答率に大きな差が見られる。これは文章と選択肢の構造を意識して二つの理由に着目できたかどうかの違いであろう。

今後は文章の構造に着目して読解することができるように指導する必要がある。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ウ (今日の科学・技術は, 経済的利益を優先～)	81	48	21	150	50.0
	誤答	ア (今日の科学・技術は, 莫大な経済的効果を～)	7	40	54	101	33.7
		イ (今日の科学・技術は, 自然の管理や社会の～)	10	4	6	20	6.7
		オ (今日の科学・技術は, AIを生み出した～)	1	3	12	16	5.3
		エ (今日の科学・技術は, 人間自身の存在意義～)	1	5	7	13	4.3

指示語の理解を通して, 傍線部の内容をつかむ問題である。正答はウ「今日の科学・技術は, 経済的利益を優先して技術革新を進めており, 人間にとっての意味が問われないまま発展しているということ」で, 正答率は50.0%, 〈a—b—c型〉を示している。

傍線部を含む「これは恐るべき事態」の「これ」の指示内容は, 「今日, こうした問いとはまったく無関係に, もっぱら, それが市場を拡大し, 経済的利益を生み出すという期待だけでイノベーションが加速されている」ことである。さらに, その中に二つの指示語が含まれており, それらの指示内容を丁寧に読み取り, 筆者の懸念について理解することができれば正答に至る。

b・c群では誤答アを選んだ生徒が多かったが, これは傍線部と同じ第十一段落の「経済的」「イノベーション」という言葉だけに着目してしまい, 文脈を考えずに選んだためであろう。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ア (科学・技術の発展について, まず身近な～)	78	61	22	161	53.7
	誤答	ウ (科学・技術が人間に及ぼす利点と欠点に～)	18	25	52	95	31.7
		イ (科学・技術が直面する現実的な問題に～)	1	2	17	20	6.7
		オ (科学・技術の未来について, 冒頭と結末が～)	3	10	5	18	6.0
		エ (科学・技術と人間の関係性について～)		2	4	6	2.0

本文の論の展開を理解する問題である。正答はア「科学・技術の発展について, まず身近な話題を挙げ, 近代と現代を比較し, 人間にとっての価値を問うことの必要性を投げかけている」で, 正答率は53.7%, 〈a b—c型〉を示している。

第一段落と第二段落で, 科学・技術の発展についての身近な話題としてAIによる囲碁の例を挙げ, 第三段落から第七段落では, 今日の科学・技術の特徴を, 近代の科学・技術の特徴と比較して論じ, 第八段落以降で科学・技術の発展が人間にとってどのような意味を持つかを問わざるを得なくなることを述べている。

論の進め方について理解するためには, 囲碁を身近な話題と考えることや, 「近代」と「現代」とを区別して理解することも必要である。誤答の中で最も多いウは, 科学・技術の利点と欠点について「詳細な分析を述べた」という点が過剰な表現である。また, 「根源的な問題を提起している」という点も, 第九段落では「根源的な問いの前に立たされることになるだろう」と述べるにとどまり, 問題を提起しているとまでは言えない。

文章の論の展開を理解するためには, 段落ごとの筆者の主張をまとめる力や, 全体の構成を把握する力が必要となる。そのような力を身に付けさせるために, 段落ごとに小見出しをつけたり, 全文を要約したりする学習に取り組ませたい。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点	
<p>評論文を読解する際には、接続語が大きなヒントとなっているが、評論文の読解が苦手な生徒は、そのヒントに気付くことができず、文章を構造的に読むことができない。そこで、文章の効果的な組み立て方や、接続の仕方について理解を深める指導が必要である。</p>	
指導における改善の具体策	
<p>接続語に注目して文章の構造を捉えられるようにするため、それぞれの接続語がもつ働きを知り、それを活用して短い文章をつくる。また、その文章の接続語の使い方について相互に話し合うことにより、文章を構造的に読むことへとつなげる。</p>	
展開1	接続語について確認する。〔全体学習〕
展開2	適切な接続語を選択する練習の中で、接続語の働きについて考える。〔全体学習〕 ※必ずしも答えが定まるものでなくてもよい。
展開3	接続語を二つを用いて、150字程度の作文を書く。〔個別学習〕 ※作文のテーマや接続語の語群を示してもよい。
展開4	展開3の作文で、接続語を隠したものをペアで読み合う。隠された接続語が何かを考え、そのように考えた理由を説明し合う。〔ペア学習〕

展開1 接続語について確認しよう。〔全体学習〕
 【主な接続語の例】
 しかし（逆接）・そして（順接）・たとえば（例示）・つまり（まとめ）・なぜなら（理由）

展開2 適切な接続語を選ぼう。〔全体学習〕
 【練習問題例】
 ① 文系科目が得意だ。《たとえば／つまり》世界史や古典が得意だ。
 ② 世界史や古典が得意だ。《たとえば／つまり》文系科目が得意だ。
 ③ 明日の体育祭は延期だ。《なぜなら／だから》雨が降っているからだ。
 ④ 雨が降っている。《なぜなら／だから》明日の体育祭は延期だ。
 ⑤ テストの前日は徹夜で勉強した。《そして／しかし》テストの結果は0点だった。

展開3 接続語を二つ用いて、三文の作文を書こう。〔150字程度〕〔個別学習〕
 【テーマ例】：自分が住んでいる町について
 【接続語の語群例】：たとえば・つまり・しかし・そして・よって・一方・また・さらに・その上
 【作文例】
 このショッピングセンターの書店は、年中無休で営業していて本の種類も多く、非常に便利だ。その上、交通アクセスも良く、駐車場も広い。一方、商店街にある書店は、毎週月曜日が休みだが、魅力的な本が多く、いつも賑わっている。

展開4 接続語を付箋で隠し、隣の生徒の作文と交換して読み合おう。隠れた接続語を考え、その接続語を選んだ理由も説明しよう。〔ペア学習〕

付箋

このショッピングセンターの書店は、年中無休で営業して
 いて本の種類も多く、非常に便利だ。その上、交通アクセスもよく
 駐車場も広い。一方、商店街にある書店は、毎週月曜日が休
 みだが、魅力的な本が多く、いつも賑わっている。

(2) 大問 [二] 現代文 (文学的文章) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	イ (飛鳥の演技力を認めながらも, 起用する～)	95	86	58	239	79.7
	誤答	オ (飛鳥の名演技で, 主役である響子の印象が～)		8	17	25	8.3
		エ (経験不足の飛鳥をほとんどの者が推薦した～)	3	4	13	20	6.7
		ア (飛鳥の面白い演技によって, 響子が～)	1		7	8	2.7
		ウ (誰の印象にも残らなかった飛鳥を響子から～)	1	2	5	8	2.7

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はイ「飛鳥の演技力を認めながらも, 起用することに不安を感じている」で, 正答率は79.7%, 〈a b - c 型〉を示している。比較的易しい設問であった。

この場面での芹澤の心情を理解するためには, 傍線部前後の内容をしっかりと捉えることが重要である。誤答オを選択した生徒は, 傍線部直後にある「あなた (響子) と組ませるには, あまりにも大きな問題が」との芹澤の発言について, 才能ある飛鳥を響子の相手役に抜擢することで, 主役の響子の存在感が薄れてしまうと飛躍した解釈をしてしまったと思われる。芹澤はこの場面では飛鳥の問題点について述べるにとどまり, 飛鳥の起用が響子にどのような影響を与えるかについては言及していない。c 群の生徒はオと同程度にエを選択していることも着目に値する。確かに, 芹澤以外の人物は飛鳥の起用に賛成しており, 問題視している芹澤とは反対の立場にあることを本文全体の内容から読み取ることができる。しかし, 芹澤は飛鳥の問題点について淡々と語るのみで苛立ちのような態度は示していない。自分の主観や経験を加えることなく, 本文の記述に基づいて丁寧に読み取っていくことの重要性に気付かせたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ア (自分が即答できないのに, 響子が～)	80	58	34	172	57.3
	誤答	ウ (自分から言い出したのに, 芹澤の～)	14	17	21	52	17.3
		エ (自分に期待してくれている芹澤の～)	4	9	14	27	9.0
		イ (飛鳥の演技を評価するあまり, 冷静さを～)	1	7	18	26	8.7
		オ (芹澤に冷たく言い返され, おびえる自分を～)	1	9	13	23	7.7

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はア「自分が即答できないのに, 響子が芹澤に臆せず発言したから」で, 正答率は57.3%, 〈a - b - c 型〉を示している。

問二も問一と同様に, 場面状況を客観的に捉えることが重要である。飛鳥の起用に「問題がある」と言う芹澤に, 神谷は「何が問題だというんですか」と迫る。それに対する, 「君なら分かるでしょ」との芹澤からの問いかけに, 神谷は言い返すことができなかった。すると響子が「堂々と」「分かりません」と口を挟んでおり, この響子の言動が, 神谷の心理に影響を与えていることが分かる。このように, 場面展開を丁寧に確認していくことで, 登場人物の心情の変化も客観的に捉えることができる。また, 助詞「ので」の前に書いてある内容が後ろに書いてあることの原因や理由を示すということについて理解できていれば, 「響子が堂々とそう尋ねた」が, 傍線部の直接的な原因であることは容易に分かるはずである。正答アは, 「堂々と」を「臆せず」と言い換えているが, 語義を十分に理解できず, 正答を導き出せなかった可能性もある。本文全体の内容を把握することと合わせて, 助詞や接続詞の理解, また, 語彙の習得についても「読むこと」や「書くこと」の活動を通して深めていく必要がある。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	自分	67	47	14	128	42.7
	誤答	人間	15	18	7	40	13.3
		本能	3	12	17	32	10.7
		表情	2	9	9	20	6.7
		経験	1	3	13	17	5.7
		(その他)	13	13	50	76	25.3
		(無答)		1	3	4	1.3

文脈に即して、空欄に適語を入れる問題である。正答は「自分」で、正答率は42.7%、〈a－b－c〉型を示している。大問二の中では、最も正答率が低かった。

空欄の前の「そこに『彼女』はいない」や直後の「自我，エゴ（中略）彼女は考えていない」に着目し、その上で、飛鳥について語ったこの芹澤の言葉が、本文上段の「君には、自分というものがある」という、響子について語った言葉との対比であると気付けば正答に至る。しかし、この言葉が対比ではなく、飛鳥についてのみ語られたものだと考えた生徒は、「役者は、人間なんだよ。（中略）そういったものがない役者が人間をやったってちっとも面白くないでしょう」という芹澤が発した言葉に着目し、「人間」を選択したのであろう。確かに、自我やエゴなどは「人間」がもつもので、文脈からも大きく外れてはいない。しかし、「彼女はいない」という表現に比べると、「人間がない」という表現は意味の幅が大きすぎる。また、c群の誤答としては「本能」に次いで「経験」という解答が目立った。両者とも文の流れとしては不自然であるが、「……がない」という言葉に続く語としては違和感がないと判断したのであろう。

このような誤答の傾向からは、a・b群は文章としては成立しなくとも内容としては成立しうる語句を、c群は内容よりも文章として成立する語句を選択しているようである。さまざまな観点から文意が通じるかを総合的に判断するように指導したい。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ(自分の悩みを見抜かれ、さらにそれが～)	96	92	61	249	83.0
	誤答	ア(自分なりに精一杯の主張をしたつもりが～)	3	3	10	16	5.3
		ウ(自分を励ましてくれる監督に対し、立場を～)	1	1	12	14	4.7
		オ(自分の状況を客観的に説明されて、悩みの～)		1	10	11	3.7
		イ(自分の悩みを贅沢だと言われ、女優としての～)		2	7	9	3.0
		(無答)		1		1	0.3

文脈に即して、登場人物の心情を理解する問題である。正答はエ「自分の悩みを見抜かれ、さらにそれが魅力にもなると指摘されたから」で、正答率は83.0%、高位の〈a b－c型〉を示している。

全体的によくできていた問題であり、誤答間にも人数の差があまりない。間違えた生徒は、選択肢全体をよく吟味せず、選択肢の一部に本文と合致する内容があることで、安易にそれを正答と考えてしまったのだろう。

生徒には、日頃の読解において、場面の状況や事実、流れを把握させ、そこから発言や描写に込められた意味を判断したり、解釈したりするように指導していきたい。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	オ（飛鳥は無意識に演技ができてしまうので～）	93	88	57	238	79.3
	誤答	イ（飛鳥は直感で演じる才能はあるが～）	6	5	24	35	11.7
		ウ（飛鳥はこれまで即興的に演じることを～）	1	7	15	23	7.7
		ア（飛鳥は女優として今が最も輝いている～）			2	2	0.7
		エ（飛鳥は演技に対しては鋭い感性をもって～）			2	2	0.7

比喩表現の内容を文脈に即して理解する問題である。正答はオ「飛鳥は無意識に演技ができてしまうので、改めて自分の演技を筋道立てて説明するのは難しいということ」で、正答率は79.3%、〈a b - c 型〉を示している。

正答を選択するためには、本文全体の内容の把握とともに、傍線部分の比喩表現を理解する必要がある。本問では、そのような設問の趣旨を理解する必要があった。

まず、芹澤が飛鳥の才能を認めている反面、女優としての彼女の今後を不安視しているという全体の内容を捉えることが必要である。さらに、傍線部分の「生まれた時から泳いでいた」「泳ぎ方を論文に」するという比喩表現が、正答オでは「無意識に演技ができてしまう」「自分の演技を筋道立てて説明する」とそれぞれ言い換えられていることを理解する必要がある。

誤答イを選んだ生徒は、選択肢の中の「緻密」という言葉が本文中にも出てくることを根拠に選択してしまったのかもしれない。誤答ウを選んだ生徒は、本文中の「緻密な観察眼」、飛鳥の「卓越した「反射神経」という表現が、選択肢の「即興的」に当たると考えたのではないか。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ウ（飛鳥の演技をめぐる芹澤と響子の会話を～）	93	66	36	195	65.0
	誤答	ア（飛鳥の才能を熱狂的に賞賛する人々と～）	6	22	29	57	19.0
		オ（登場人物がそれぞれの思いを主観的に～）	1	7	14	22	7.3
		エ（前半では響子が芹澤を、後半では芹澤が～）		2	12	14	4.7
		イ（響子が感情的に自分自身を語ることにより～）		3	9	12	4.0

本文の表現の特徴を把握する問題である。正答はウ「飛鳥の演技をめぐる芹澤と響子の会話を中心に物語が進み、その会話を通して演技の本質が語られている」で、正答率は65.0%、〈a - b - c 型〉を示している。

誤答はアが多いが、アは「熱狂的に称賛する」という語句が過剰な表現である点で誤りだが、趣旨としては本文に沿った内容である。したがって、正答を選んだ生徒を含めて、84.0%の生徒はおおよその内容を理解しながら文章を最後まで読めていることが分かる。芹澤以外の人々が飛鳥を「熱狂的に称賛」したと誤読した理由は二点考えられる。一点目はリード文、二点目は本文中の飛鳥を肯定する表現である。リード文には「鮮烈な演技をした佐々木飛鳥」という言葉があり、この部分から飛鳥は人の心に残る演技をする人物だということを理解したのであろう。また、本文中では、芹澤に対する神谷の言葉についての「非難の響き」という表現や、飛鳥の演技についての描写、飛鳥を肯定する響子の堂々とした発言などが印象に残ったと思われる。それらから「熱狂的に賞賛する人々」と考えたのではないか。確かに、響子と神谷は飛鳥の演技を高く評価している。しかし、この設問で問われているのは「本文の表現の特徴」である。飛鳥への賞賛や芹澤の冷静さなど、部分的には本文との合致が見られるが、全体を通して「人々」が飛鳥の才能を「熱狂的に賞賛している」とまでは言うことができない。本文全体の流れや表現などについて、根拠を押さえながら丁寧に読んでいくことが必要である。

<指導上の留意点>

実態及び問題点

文学的文章では、登場人物の心情が、会話や動作、情景描写によって表現豊かに描かれており、登場人物が抱いた心情の原因や、それがどのように表現されているのかを的確に捉えなければ、その作品を深く味わうことはできない。しかし、既知の言葉のみを拾って感覚的に読んでしまっている生徒が少なくない。

指導における改善の具体策

登場人物の会話や動作を場面ごとに整理し、物語の展開を構造的に捉えさせる。また、登場人物の心情が表現されている箇所について、分かりやすい言葉に置き換えることで心情を深く読み取らせる。最後に、心情の変化をグラフで表わすことで、登場人物の心情の変化を読み取らせたい。

【指導展開例】※生徒の実態に合わせ、各展開例を組み合わせる行うことが好ましい。

展開①〔ねらい：登場人物の心情の理解〕

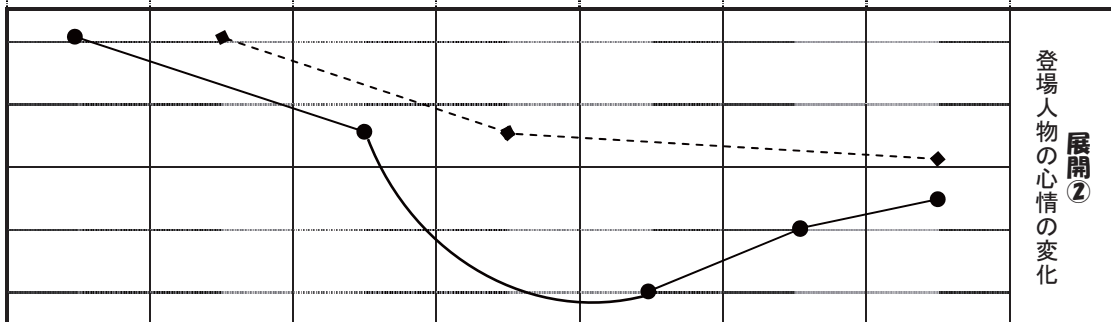
- ・場面ごとの登場人物の会話や動作から心情を読み取り、簡潔に一言で言い表す。
- ・語群で例を示し、選択する形にしてもよい。(記入例※1)

展開②〔ねらい：登場人物の心情の変化の把握〕

- ・登場人物の心情の変化について考察し、グラフで表す。
- ・グラフの尺度については、生徒に考えさせてもよい。(記入例※2)
- ・グラフについて相互に比較し、その理由について説明し合う。

ワークシート記入例

響子 響子は一瞬目を逸らし、 恥ずかしそうな顔になっ た。	芹澤 芹澤は、響子に向かって 身を乗り出す。「君だっ て、まさにその部分で悩 んでいるわけでしょ。」	響子 響子は「あつ」という表 情になった。	芹澤 「何言ってるんだい」芹 澤が笑い出した。「役者 は、人間なんだよ。」	響子 「駄目なんですか」響子 が低く呟いた。「そんなも の、なければいいと思う ようなものばかりだ わ。」	響子 「あたしには分かりませ ん。」響子が堂々とそ う尋ねた……	芹澤 その表情は打って変わっ て厳しいものになってい た。「だけど、彼女には非 常に大きな問題があ る……」	登場人物の会話・動作
決まり悪さ	熱意 真意	理解 自覚	あざけり 冷笑	非難	もどかしさ 疑問	憂慮 気がかり	心情 展開①



※2 尺度の例 (—：芹澤の発言に対する響子の納得度、---：演技の本質を語る芹澤の熱意)

※1

課題

登場人物の会話・動作から、どのような心情を読み取ることができますか。

語群から当てはまるものをそれぞれ選び、「心情」の欄に書き入れなさい。

《語群》 憂慮 もどかしさ 非難 あざけり 理解 熱意 決まり悪さ

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点
問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	エ (共用場所で時間を考えずに大声で話す～)	94	79	69	242	80.7
	誤答	ア (他の学生とうまく交流できない～)	6	9	11	26	8.7
		イ (日本人の学生だけがごみ出しの時間を～)		5	12	17	5.7
		オ (一部の学生が深夜にこっそり学生寮を～)		6	5	11	3.7
		ウ (雑誌をまとめて縛って出してしまう～)		1	2	3	1.0
		(その他)				1	1

資料に示された情報を正しく読み取る問題である。正答はエで、正答率は80.7%、高位の〈a－b－c型〉を示している。資料と選択肢とで異なる表現が用いられていたが、情報としての同一性を見極めることができたようである。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	オ (前の日の夜にごみを出さないでください。)	92	79	62	233	77.7
	誤答	ア (ごみは必ずごみ箱に捨ててください。)	3	10	9	22	7.3
		ウ (空き缶は月曜日と木曜日に出してください。)	2	2	13	17	5.7
		イ (食堂の片付けをしっかりとしてください。)	3	4	8	15	5.0
		エ (ドアの開け閉めは静かにしてください。)		4	8	12	4.0
		(その他)		1		1	0.3

目的に応じて情報を取捨選択する問題である。正答はオで、正答率は77.7%、〈a－b－c型〉を示している。全ての資料を相互に関連付けて理解し、必要な情報を把握する力が求められる。本問の正答率からは、易しい内容であれば資料の趣旨を理解し、情報を取捨選択できることが分かる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	イ (～情報を減らした。)	73	57	31	161	53.7
	誤答	ア (～熟語を簡単な言葉に置き換えた。)	4	14	22	40	13.3
		エ (～一文を区切って示した。)	9	8	16	33	11.0
		ウ (～文末表現を可能な限り統一した。)	9	9	14	32	10.7
		オ (～内容ごとに項目を立てた。)	3	12	16	31	10.3
		(その他)	1			1	0.3
		(無 答)	1		1	2	0.7

表現の工夫について理解する問題である。正答はイで、正答率は53.7%、〈a－b－c型〉を示している。本問では、比較すべき必要な資料に注目し、両者の相違点を的確に理解する必要があるが、そのような力が全体的にやや不足していることが分かる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	オ (入り口の近くに自転車を置かないで～)	94	86	69	249	83.0
	誤答	イ (通るところがせまくなります。入り口の～)	3	4	7	14	4.7
		エ (通るところがせまくなりますので～)		6	8	14	4.7
		ア (入り口付近に駐輪しないでください～)	3	2	8	13	4.3
		ウ (入り口の近くには、通路がせまくなり～)		2	4	6	2.0
		(その他)			3	3	1.0
		(無 答)			1	1	0.3

条件を踏まえた具体的表現について考える問題である。正答はオで、正答率は83.0%、高位の〈a－b－c型〉を示している。三つの条件を全て満たした表現について、各選択肢を丁寧に検討することができた。文章を推敲する際に、踏まえるべき条件を示して点検させる指導が有効であろう。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	イ (雨不足で中庭の花が枯れ <u>そう</u> だ。)	87	60	44	191	63.7
	誤答	エ (昨日彼は友達から本を借りた <u>そう</u> だ。)	5	20	23	48	16.0
		オ (彼が生徒会役員に立候補する <u>そう</u> だ。)	3	16	22	41	13.7
		ア (彼女の歌声は素晴らしい <u>そう</u> だ。)	3	3	4	10	3.3
		ウ (横浜の夜景はとてもきれいだ <u>そう</u> だ。)	1	1	6	8	2.7
		(無 答)	1		1	2	0.7

文法的識別についての問題である。正答はイで、正答率は63.7%、〈a－b－c型〉を示している。正答は様態を表し、誤答は全て伝聞を表す。b・c群の生徒は、「～たそうだ」という例文と同じ形の選択肢を選ぶなど、文意から文法的意味を判断する力が不足しているようだ。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア (清流)	79	69	62	210	70.0
	誤答	イ (国立)	13	19	16	48	16.0
		ウ (日没)	6	4	8	18	6.0
		エ (骨折)		2	11	13	4.3
		オ (地震)	2	6	3	11	3.7

熟語の構成の理解を問う問題である。正答はアで、正答率は70.0%、群間差の小さい〈a－b－c型〉を示している。熟語の構成についての知識を踏まえ、助詞や送り仮名を補って二字の関係を考えることで正答に至る。高等学校での漢文指導等につなげるためにも、熟語の構成について今一度確認し、理解させることが重要である。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ (呼びかけて)	91	55	44	190	63.3
	誤答	オ (怒られた)	5	19	16	40	13.3
		イ (彼に)	1	10	15	26	8.7
		ア (している)		8	16	24	8.0
		ウ (後ろから)	3	8	9	20	6.7

文中で傍線部「うかつにも」に係る部分を選択する問題である。正答はエで、正答率は63.3%、〈a－b－c型〉を示している。傍線部の「うかつにも」は、動詞を修飾する言葉であり、更に「僕」の動作を修飾していることが理解できれば正答に至る。b・c群の生徒は、動詞を選ばなかった生徒も多い。文章を読んだり表現したりする際に、言葉がどこに係っていくのかということを意識するよう指導したい。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ウ (あざける)	85	63	47	195	65.0
	誤答	エ (ねぎらう)	4	12	16	32	10.7
		オ (まどろむ)	8	14	9	31	10.3
		イ (たしなめる)	3	5	20	28	9.3
		ア (あなどる)		4	6	10	3.3
		(その他)		1		1	0.3
		(無 答)		1	2	3	1.0

和語の知識を問う問題である。正答はウで、正答率は65.0%、〈a－b－c型〉を示している。豊かな表現力を養うために、和語の意味や語感を大切にしよう指導したい。

問六

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (1)	正答	歓迎	57	40	31	128	42.7
	誤答	歓□ (□が別の字, または無表記)	26	31	21	78	26.0
		観□ (□が「迎」の場合も含む)	6	9	19	34	11.3
		勸□ (□が「迎」の場合も含む)	6	8	8	22	7.3
		(その他)	4	4	7	15	5.0
(無答)	1	8	14	23	7.7		

「カンゲイ」を漢字に直す問題で、正答率は42.7%、〈a－b－c型〉を示している。平成元年度(正答率32.0%)、平成17年度(正答率40.7%)にも出題されたが、正答率は今回が最も高い。誤答「歓□」では、「迎」の「印」の部分を「卯」と書いた誤答が最も多かった。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (2)	正答	往復	91	82	67	240	80.0
	誤答	住復	2	9	10	21	7.0
		□復 (□が「往」の場合も含む)	1	2	8	11	3.7
		□復 (□が別の字, または無表記)	4	1	2	7	2.3
		(その他)		3	6	9	3.0
(無答)	2	3	7	12	4.0		

「オウフク」を漢字に直す問題で、正答率は80.0%、高位の〈a－b－c型〉を示している。「フク」を「復」と書き誤る可能性が高いのではないかと予想されたが、正しく書けた生徒が多かった。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (3)	正答	諦(める)	42	27	17	86	28.7
	誤答	締(める)	13	10	17	40	13.3
		辞(める)	1	5	2	8	2.7
		(その他)	13	14	13	40	13.3
		(無答)	31	44	51	126	42.0

「アキラ(める)」を漢字に直す問題で、正答率は28.7%、〈a－b－c型〉を示している。「締める」の誤答や無答が目立ち、正答率は漢字の設問の中で最も低かった。音読みの漢字だけでなく、訓読みの漢字の書き取りも丁寧に指導したい。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (4)	正答	いちじる(しい)	97	91	72	260	86.7
	誤答	いちぢる(しい)	2	5	8	15	5.0
		(その他)	1	3	14	18	6.0
		(無答)		1	6	7	2.3

「著(しい)」の読みを答える問題で、正答率は86.7%、高位の〈a b－c型〉を示している。正答率は問六の中で最も高く、全体的によくできている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	しょうじん	85	73	36	194	64.7
	誤答	せいしん	11	19	56	86	28.7
		せいじん	2	3	2	7	2.3
		しょうしん	1	2	2	5	1.7
		(その他)	1	3	4	8	2.6

「精進」の読みを答える問題で、正答率は64.7%、〈a b - c型〉を示している。昭和42年度（正答率79.0%）に比べれば低いが、平成4年度（正答率43.0%）及び平成17年度（正答率47.0%）からは大きく上がっており、小中学校での漢字学習指導の成果が表れていると思われる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	しょさ	65	44	24	133	44.3
	誤答	しょさく	32	45	62	139	46.3
		(その他)	3	9	12	24	8.0
		(無 答)		2	2	4	1.3

「所作」の読みを答える問題で、正答率は44.3%、〈a - b - c型〉を示している。誤答のほとんどが「しょさく」と読んでおり、「所作」という言葉自体に馴染みがない生徒が多いのではないかと考えられる。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
<p>情報が氾濫する現代において求められる、目的に応じて必要な情報を取捨選択する力がやや不足しているようである。そこで、情報と情報との関係について考えさせる活動を通して、実社会において情報を活用する力を身に付けさせたい。</p>	
指導における改善の具体策	
学習活動	<p>1. 資料の内容を的確に読み取る。2. 与えられたテーマに沿った資料を、複数の資料から選択する。3. 複数の資料から共通する内容を読み取り、自分たちでテーマを考える。</p>
	<p>資料群（表、グラフ、新聞記事など）例</p> <p>①スマートフォンの普及率について ②高校生の家庭での過ごし方について ③コンビニエンスストアの数の推移について ④世帯構成の推移について ⑤友人とのコミュニケーションツールについて ⑥1日の読書時間について など</p>
	<p>1 〈個人の活動〉資料群のそれぞれの資料について、何を読み取ることができるかを考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>例：調査内容（何を調べたものか）・大まかな傾向・比較対象（何と何を比べたものか）など</p>
	<p>2 〈グループ活動〉共通のテーマについて、そのテーマに沿った資料を資料群から二つ選択する。</p> <p>テーマ例：技術進歩と学力の関係、選択資料例：①と②</p> <p>(1) その資料を選択した根拠をグループで話し合い、まとめる。 (2) グループでまとめた内容を、全体で発表する。 (3) 発表内容について、全体で検討する。</p>
	<p>3 〈グループ活動〉資料群から二つ以上の資料を選択し、テーマを考える。</p> <p>選択資料例：③と④、テーマ例：一人暮らしの高齢者の食生活</p> <p>*資料を示しながら、グループで考えたテーマを全体で発表する。</p>
	<p>【応用】</p> <p>4 興味のある分野（教育・経済・文化・科学・医療など）でグループ分けをして、図書館やインターネットなどを利用して複数の資料を探す。その資料を基に、テーマを考えて発表する。</p> <p>*そのテーマを基に、小論文を書いてもよい。</p>

(4) 大問 [四] 古典 (古文) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	わらいあわれ	96	94	84	274	91.3
	誤答	わらいあはれ	1	2	2	5	1.7
		はらいあわれ	1	1	1	3	1.0
		その他	2	3	10	15	5.0
		(無 答)			3	3	1.0

歴史的仮名遣いの読み方を答える問題である。正答は「わらいあわれ」で、正答率は91.3%、高位の〈a b - c 型〉を示している。語頭以外の「ハ」「ヒ」「フ」「ヘ」「ホ」を「ワ」「イ」「ウ」「エ」「オ」と読む初歩的な古典の知識については、多くの生徒が習得していることが分かる。

ただし、昨年度出題された「ゑ」が五十音図のどの行の文字であるかを答える問題では、正答率が11.0%と非常に低かった。生徒の答えとしては、「ア行」が最も多く、「ゑ」を「エ」と読むことだけを理解していることが分かる。

これらを考え合わせると、歴史的仮名遣いを教える際には、その読み方を教えることもさることながら、五十音図として理解させることが重要である。指導者は、生徒が歴史的仮名遣いを読めてはいなくても、五十音図としては十分な理解に及んでいないことを念頭に置き、始めに丁寧に指導をしておくことが必要であろう。動詞の活用の学習に入る前に、ぜひ習得させておきたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	オ (うっかり言った顕雅の言葉を面白がる～)	86	52	17	155	51.7
	誤答	ア (ひどい雨に対する顕雅の不安に同調する～)	5	22	33	60	20.0
		ウ (急な雨におびえる顕雅の様子をからかう～)	8	18	27	53	17.7
		イ (顕雅の乱暴な物言いに対しておびえる～)	1	6	17	24	8.0
		エ (何事も決めつける顕雅の態度を非難する～)		2	6	8	2.7

発言に込められた気持ちを文脈から読み取る問題である。正答はオ「うっかり言った顕雅の言葉を面白がる気持ち」で、正答率は51.7%、群間差の大きい〈a - b - c 型〉を示している。正答に至るには、顕雅が若い時から「言失」がひどかったという一行目の記述と、三行目の顕雅の言葉「車の降るに、時雨さし入れよ」とを結び付け、これが顕雅の言い間違いなのだ気付く必要がある。また、ここで理解できなかったとしても、六行目「御いひたがへ」、九行目「観音に思ひまがへて」などから本文の話題が言い間違いだと総合的に解釈できれば、正答に至る。しかし、b・c 群の生徒は部分的な読解に止まってしまったようである。

アを選んだ生徒は、顕雅の「車の降るに……」との発言に対し、女房が「車軸とかやにや……」と言ったのを同調と捉え、「おそろしや」を額面どおりに解釈したのだろう。国語の学習を通して、言葉の意味は必ずしも辞書どおりでなく、さまざまな状況に応じて決定されるのだと理解させたい。次に多かった誤答ウは、傍線部の後の「わらひあはれけり」からの判断だろう。傍線部以外の箇所から解答の根拠を求めようとした姿勢は評価できる。わずかではあるが、a 群のみアよりウの誤答が多いのも頷けよう。

b・c 群の多くの生徒は、文章を全体として捉えようとする意識が薄く、部分的な理解に終始しがちであると考えられる。指導者はその点を鑑み、生徒が文章全体を広く読み取り、そこに描かれた物語の因果関係がつかめるよう、分かりやすく図示するなどの工夫を考えるとよいだろう。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	観音	80	42	21	143	47.7
	誤答	御簾	12	26	35	73	24.3
		車軸	3	12	9	24	8.0
		時雨	1	8	5	14	4.7
		きは	1	5	6	12	4.0
		(その他)	1	5	18	24	8.0
		(無 答)	2	2	6	10	3.4

顕雅の言い間違いである「ねずみ」が本来は何であったのかを、前後の内容から理解する問題である。正答は「観音」で、正答率は47.7%、〈a－b－c型〉を示している。

発言の主体は顕雅で、そのように発言してしまった理由が八行目「をりふし……」の文にあり、ねずみが御簾の近くを通ったのを見て、「観音」と言うべきところを間違えて「ねずみ」と言ってしまったことを読み取ることができれば、正答に至る。

最も多かった誤答は「御簾」で、八行目の「ねずみの御簾のきは」という箇所から、「ねずみ」に関連のある語だと考えたためであろう。また、「車軸」を選んだ生徒は、「三尺の□をつくり」という表現に合うように考えた可能性もある。しかし、いずれも「御祈り」のためにつくるものとしては適当ではない。「観音に思ひまがへて」という意味を理解できなかった上に、本来「御祈り」のためにつくるものとして「観音」が適当であると分らなかった結果、二字という条件で探してしまったのではないだろうか。なお、設問の「本来どのように言おうとしたのか」という箇所が、言い間違いであることを示していると理解できれば、文章の内容理解の手がかりとなる。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	イ (顕雅が女房に)	85	58	27	170	56.7
	誤答	ア (女房が顕雅に)	10	20	27	57	19.0
		エ (女房が宮腹に)	1	7	25	33	11.0
		オ (宮腹が女房に)	2	11	16	29	9.7
		ウ (顕雅が宮腹に)	2	4	5	11	3.7

誰が誰に発言したのかという内容を文脈から読み取る問題である。正答はイ「顕雅が女房に」で、正答率は56.7%、〈a－b－c型〉を示している。

発言の内容を理解できれば、おのずと発言の主体も理解できる。しかし、発言内容を理解できていなければ、解答の根拠を七行目「いはれければ」、八行目「いはれたりける」に求め、これらを受身の表現だと考えた場合、「御いひたがへ……」は女房が顕雅に言われた発言となり、その返答として「そのために……」が顕雅が女房に言われたと読み取ることとなる。そのため、誤答ア「女房が顕雅に」が最も多かったと考えられる。

c群の特徴としては、多くの生徒が誤答エまたは誤答オを選んでいることが挙げられる。エとオは顕雅が会話に関わっていないことで共通しており、このことから、これらの生徒は話の主題が「顕雅の言い間違い」であることを理解していないと考えられる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ア（「時雨さし入れよ」より「ねずみ」の～）	72	37	15	124	41.3
	誤答	イ（「時雨さし入れよ」の方が「ねずみ」の）	20	21	27	68	22.7
		エ（「時雨さし入れよ」の言い間違いでは～）	3	17	21	41	13.7
		ウ（「時雨さし入れよ」の冗談には話し手の～）	2	15	21	38	12.7
		オ（「時雨さし入れよ」より「ねずみ」の～）	3	9	16	28	9.3
		（無 答）		1		1	0.3

前後関係から傍線部の内容を理解する問題である。正答はア『時雨さし入れよ』より『ねずみ』の言い間違いの方が面白かった」で、正答率は41.3%、〈a－b－c型〉を示している。大問四の中では、最も正答率が低かった。

言い間違いに対する感想という内容から、「をかし」の意味は、「面白い」が適当である。また、二つの言い間違いを比較して、「ねずみ」の言い間違いが『時雨さし入れよ』には、まさりてをかしかり」ということを読み取ることができれば、正答に至る。

a 群では、正答アと誤答イを選んだ生徒の合計が92.0%で、言い間違いの比較は理解しているように思われる。誤答イを選んだのは、『時雨さし入れよ』には」を主語として捉えてしまっているためであろう。また、傍線部直前の「ねずみ」の言い間違いについて触れていない誤答ウと誤答エを選んだ生徒は、「まさりて」を「ねずみ」の言い間違いとの比較と捉えていないと考えられる。したがって、これらの選択肢を選んだ生徒は、傍線部の読解にのみ集中し、全体として二つの言い間違いに関する内容で構成されているという点に気付いていないと言える。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	エ（顕雅は自分の言い間違いをなくせる～）	68	47	26	141	47.0
	誤答	ウ（女房たちは顕雅の失敗に対して最初は～）	13	16	21	50	16.7
		ア（顕雅は若い頃よりも癖がひどくなって～）	8	16	13	37	12.3
		オ（顕雅はねずみの供養をすることにより～）	5	13	18	36	12.0
		イ（宮腹は御簾の外にいた顕雅を雨が降って～）	6	7	22	35	11.7
		（無 答）		1		1	0.3

本文全体の内容を確認する問題である。正答はエ「顕雅は自分の言い間違いをなくせるように祈願しようとしていた」で、正答率は47.0%、〈a－b－c型〉を示している。

誤答の中で最も多かったウを選んだ生徒は、本文四、五行目の場面を、女房達が顕雅の言い間違いに「気付かないふり」をして、御簾の中で「おそろしや」と言ってこっそり笑い合ったと誤読したようである。しかし御簾は姿は隠すが声は通すものであり、この解釈はできない。男女は御簾を挟んで会話をするといった王朝貴族の日常的な振る舞いについて、指導者は折に触れて説明する必要がある。

誤答の中で次に多かったアを選んだ生徒は、本文一行目「若くより」の「より」を起点ではなく比較と捉えてしまったのだろう。誤答オを選んだ生徒は、顕雅の七行目「そのために……」という発言における「観音」が、「ねずみ」の言い間違いだと理解できなかつたと考えられる。誤答イを選んだ生徒は、三行目「時雨さしいれよ」を、宮腹が顕雅を「内へ招き入れた」と考えたようである。

ここで特筆すべきは、c 群において最も多かった誤答がイであったことである。他の誤答とは異なり、イだけは選んだ根拠が特定しづらい。何らかの恣意的な解釈が行われたのであろうが、本文を丁寧に読むという姿勢をしっかりと身に付けさせていくことが肝要であろう。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点

今回の分析から、文章全体の構造を把握する力が十分でないため、話の結論やまとめが理解できないという問題点があることが確認できた。

指導における改善の具体策

ばらばらにした文を正しく並べ替えて意味の通る文章にした上で、各文の関係図の作成に取り組むことで、文章の構成を意識させる。その上で最後の一文の解釈を丁寧に行うことで、その文が結論やまとめとして文章全体にどのような影響を与えているのかを考えさせ、説話や物語の構造を踏まえて読解する力を養う。

【指導展開例】

取組 五人程度のグループをつくり、「時雨さし入れよ」には、まさりてをかしけり」を話し合いながら解釈し、本文のどこに入れるのが適当かを考える。

展開1 文章を一文ずつA～Dのカードに分けたものを正しく並べ替える。

A 神無月のころ、ある宮腹に参りて、御簾の外にて、女房たちどものがたりせられけるに、時雨のさとしければ、供なる雑色を呼びて、「車の降るに、時雨さし入れよ」とのたまひけるを、「車軸とかやにや、おそろしや」とて、御簾の内、笑ひあはれけり。

B をりふし、ねずみの御簾のきはを、走り通りけるを見て、観音に思ひまがへて、のたまひけるなり。

C 楊梅大納言顕雅卿は、若くよりいみじく言失をぞし給ひける。

D さて、ある女房の、「御いひたがへ、つねにありと聞ゆれば、まことにや、御祈りのあるぞや」といはれければ、「そのために、三尺のねずみをつくり、供養せむと思ひ侍る」といはれたりける。

①個人でカードの並べ替えをし、グループ内で発表する。
②グループ内で話し合い、グループの考えをクラスで発表する。
※指導者は正答を伝える（正しくは【C—A—D—B】）。

展開2 【C—A—D—B】の関係を図にする。

グループ内で話し合い、文の関係図を作成する。
※指導者は、この文章が顕雅の二つの言い間違いの逸話から構成されていることに気付かせる。

展開3 （新しいカードXを配付）Xを現代語訳し、本文中のどこに入れるたらよいかを考える。

X 「時雨さし入れよ」には、まさりてをかしかりけり。

①Xを現代語訳し、本文中のどこに入れるべきか、グループで話し合う。
・「に」「は」の文法的用法を調べる。

②グループごとに「時雨さし入れよ」には、まさりてをかしかりけり」の現代語訳と、本文中のどこに入れたかを発表する。

展開4 全体のまとめをする。

①Xを加えた全体の構成図を作成する。

ワークシート記入例

<p>【1】文章を正しく並べ替えよう</p> <p>①自分の考え （ ） ↓ （ ） ↓ ②グループの考え （ ） ↓ （ ） ↓ （ ） ↓ （ ） ↓</p>	<p>【2】各文の関係を図にしてみよう</p> <p>C …… 言い間違いの多い顕雅 ← A …… 「車」と「時雨」の言い間違い DB …… 「観音」と「ねずみ」の言い間違い</p>						
<p>【3】新しいカードXについて考えよう</p> <p>①X（「時雨さし入れよ」）には、まさりてをかしかりけり。 を現代語訳しよう。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>に</td> <td>格助詞 比較の基準「より」「に比べて」</td> </tr> <tr> <td>は</td> <td>係助詞 取り立てて提示</td> </tr> <tr> <td>まさり</td> <td>ラ行四段活用動詞連用形（数量や程度が増える、強まる）</td> </tr> </table> <p>つまり…何が「時雨さし入れよ」と（比較）されている！ 合わせて…</p>	に	格助詞 比較の基準「より」「に比べて」	は	係助詞 取り立てて提示	まさり	ラ行四段活用動詞連用形（数量や程度が増える、強まる）	<p>現代語訳 「ねずみ」の言い間違いは、「時雨さし入れよ」の言い間違いよりも、いっそう面白かった。</p> <p>②Xは文章全体の中でどこに入る？ （B）の後</p>
に	格助詞 比較の基準「より」「に比べて」						
は	係助詞 取り立てて提示						
まさり	ラ行四段活用動詞連用形（数量や程度が増える、強まる）						
<p>【4】まとめ</p> <p>C …… 言い間違いの多い顕雅 ← A …… 「車」と「時雨」の言い間違い DB …… 「観音」と「ねずみ」の言い間違い X …… 「ねずみ」の言い間違いは「時雨」の言い間違いより面白かった</p>							